

復 命 書

17年 9月 20日

静政会 代表

鈴木 和彦 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

記

1 日 程

17年 9月 17日(土)

2 視 察 先(都市名、視察施設等を具体的に)

東京都千代田区

女性のための政治スクール参加

3 視 察 内 容(調査事項、調査結果を具体的に)

「財政面から社会保障を考える」

財務省主計局主計官 福田 淳一氏

「地方主権と市民協働」

多摩市市長 渡辺 幸子氏

4 そ の 他(所感、感想等)

別紙参照

財政面から社会保障を考える 福田淳一氏 財務省主計局主計官 (厚生労働担当)

社会保障関係費の全体的な姿を聞けばかなり不安になる現状。17年度の総額は、203,808億円、前年比5,838億円増になっている。給付と財源では、もちろん給付が8兆円あまりも上回る。これを、国債、地方債、特別公債などの借金を重ねる形で補っている。

高齢社会に入り、年々給付費が増えている現実を、社会保障改革をどう行って歳出を抑制していくかが大事なことだと実感。国民負担率の国際比較。高負担高福祉はスウェーデンで71.4%ついでフランス、ドイツ、イギリスと続き、日本は、44.8%アメリカは37.8%で低い。負担は仕方ないが、税金の間違った使い方をすべきと思う。

年金制度改正、介護制度改革、医療制度改革、生活保護制度、次世代育成支援などの社会保障制度全般についての一体的な1日も早い見直しが必要だ。

地方主権と市民協働

渡辺幸子氏 多摩市市長

市民部長を経て2002年4月から現職。これまでの福祉・男女平等・コミュニティー・文化・平和など市民と共に歩んだ職員時代に、前向きに、可能性を追求してきた土台があればこそ出来るのだと感じた。

市民参加度日本1：市民が主役のまち多摩は心地よい目標だ。委員会への市民公募の徹底・政策形成過程への女性の参加促進・多摩市自治基本条例などなど。

サイレントマジョリティーの声をどう取るか。。。

元気な高齢社会のモデル都市に・緑豊かな環境を守り育てるまち・ハローキティに会えるまち・根回し行政から、科学的な仕事へ・市民と対等な関係でまちを創る自立した職員・誰もが夢をもち、互いに支えあうまち多摩市！わー、住んでみたい！！と思わず思わされてしまう迫力ある話だった。この講座のタイトルに、～女性は世界を変えられるか～とある。発言する場があたえられれば、必ずやその任を果たせると。。確信。